

## カナダ人物記①6

女性で初めて総督になった

### ジャンヌ・ソーベ

カナダの元首はエリザベス女王である。しかし女王はイギリスに住んでいるため、カナダ人の総督がその代理として、外国の元首を迎えたり、内閣の助言に従って議会を招集したりする。

カナダのいわば象徴であるその総督に、初めて女性選ばれた。ジャンヌ・ソーベ、六十一歳。四年前、カナダで初の女性下院議長になった人である。



ジャンヌ・ソーベは一九二二年四月二十六日、サスカチュワン州の小村で、フランス系の建築業者の家に生まれた。三歳のときオタワに出て、カトリック系の学校に学ぶ。学生時代は、社会と宗教界の改革を叫ぶ急進的なカトリック青年組織の活動に没頭。二十歳でモントリオールへ移り、同組織の全国議長となる。

このモントリオール時代に、夫のモリスをはじめ、ラロンド(現蔵相)、ペレチエ(現国連大使)、ルデボワール(現在のケベックの自由党リーダー)と知り合う。二十六歳で結婚して、夫婦で欧州へ遊学。

一九五二年に帰国してからのジャンヌ・ソーベは、CBC(カナダ放送協

会)で放送ジャーナリストとしてデビュー。英仏両語を流暢に話し、インタビューに、時事解説に、またパネル討論にと、多才を発揮する彼女は、カナダの最良のジャーナリストに数えられた。

三十七歳で長男を産んだが、子守のかたわら原稿を書き上げ、そしてスタジオに駆け込む日々が続いた。生活は決して楽ではなかった。

夫が連邦政界に入ると(一九六一年)、政治家の妻は公正なジャーナリストたりうるかと疑う周囲の目が、ソーベの活動を陰に陽に制限した。



ジャンヌ・ソーベ総督

のちに夫が民間に転出すると、夫と同じ企業グループだという理由もあって、彼女の転職の口が破談になった。

「夫の職業のせいで妻に仕事の機会が与えられないなんて、間違ってます」と、彼女は当時怒っている。

一九七二年、夫の勧めで連邦下院議員選挙に立候補して当選、ソーベは第二の職業人生に踏み出した。ただちにトルドー内閣の科学技術大臣に任せられ、二年後に環境大臣、さらに翌年に通信大臣を歴任、一九八〇年には初の女性

下院議長となっている。

三度の閣僚職を難くこなしたソーベにとって、下院議長時代はかつてない試練のときであった。彼女が議長に就任した時期は、自由党が政権に返り咲いたばかりで勢力が安定しておらず、議会運営の最も難しい時期であった。

ソーベは、議会運営については全くの素人で、ルールを知らないうえに議員の名前もなかなか覚えられない。おまけに女性であることも手伝って、野党の議長攻撃や嫌がらせがしつこく続いた。一九八二年には、野党は国家エネルギー法案の審議を拒否して欠席戦術に出、議会は十五日間も空転した。しかしソーベは、議長の強権発動による事態の収拾を拒否し、各党間の話し合いによる解決を主張して譲らなかつた。ソーベ不信の声が高まった。

彼女はその間、議事規則や先例を研究し、運営ルールの変更を提案。また、職員員の綱紀粛正や質素化などの改革を一つ一つ実現していった。サタデー・ナイト誌は八三年五月に書いている――

「ジャンヌ・ソーベは議長には不向きな女性だが、任期を終える頃には、議事堂内をすっかり変えているに違いない」まさにその通りになった。結局彼女は、忍耐強さ、努力、エレガンスの堅持で、国民みんなの尊敬を得たのである。彼女に対していつもは批判的な人たちも、ソーベの総督就任を心から祝ったという。

### 編集後記

●カナダに新首相が誕生しました。英語圏カナダとフランス語圏カナダの融和に心をくだいたトルドー首相に代わって登場したターナー氏は、対米関係の強化や国内経済の立て直しを重視する現実主義者といわれています。新しい首相のもとで、カナダはどのような歩みを見せるのでしょうか。

●新内閣の発足とともに、連邦議会は夏期休暇に入りました。総選挙も控えていますので、ターナー政権の政策が具体的に明らかにされるのはその後になるはずですが。

●なお首相の座を下りたトルドー氏は、しばらくはモントリオールで子供たちと一緒に過ごす、将来についてはその後で決める、と述べています。

●昨年のブリティッシュ・コロンビア州特集に続いて、今回はカナダの経済・文化活動の中心オンタリオ州をご紹介します。ケベック州と並んで、歴史的にもまた政治的・経済的にもきわめて大きな存在です。(吉田)

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を反映するものではありません。また公式文書の翻訳は仮訳です。転載の際は、できるだけ出典を明らかにして下さい。ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

〒107 東京都港区赤坂七丁目三三三八  
カナダ大使館広報部